

25年農業技術10大ニュース

雑草・鳥獣対策に成果

農水省は19日、2025年の農業技術10大ニュースを発表した。この1年間に報道された新しい技術や品種などから特に 관심が高い成果を選ぶもので、1位は難防除雑草ナガエツルノゲイトウ防除技術を開発。2位はレーザー搭載ドローンによる鳥獣害対策、3位は有人監視型自動運転草刈り機。4位は温暖化時代の果樹適地予測マップを開発。5位はブドウの新品種「サニーハート」が登場。6位は桃の木、AIが水分状態を診断。8位は海水から肥料原料を確保。9位はDXでライスセンターのスマート化。10位は大豆、根粒菌共生系で温室効果ガス削減技術の開発が選ばれた。

農業技術クラブに加盟する農業専門紙など30社の投票で選ばれた。1位のナガエツルノゲイトウ防除技術

は、農研機構などが開発した。水稻の移植栽培期間中に複数の農薬で処理する技術を体系化し、2年間継続すれば同雑草を地下部まで駆除できる。農家の手



取り除草などの追加的な作業を省き、同雑草の分布拡大を防ぐ。10件のうち半数がドローンや人工知能（AI）などを活用したスマート技術関係で、昨

年に引き続き注目が集まつた。2位に選ばれたレーザー搭載ドローンは、NTTイードローンなどが開発した技術で、自動で航行して赤や緑のレーザーを鳥

に照射する。鳥インフルエンザや豚熱などの感染源となる鳥獣を追い払い、畜産の防疫対策に貢献する。

3位のアテックスが開発した有人監視型自動運転草刈り機は、エンジンなどの廻わた

2025年農業技術10大ニュース

（出所：農水省）

1位 ナガエツルノゲイトウ防除技術を開発

除草剤の体系処理を開発、2年間継続で地下部まで駆除が可能



2位 レーザー搭載ドローンで鳥獣害対策

イノシシや鹿、カラスなどで忌避効果を発揮



3位 有人監視型自動運転草刈り機

見守るだけの草刈り作業で労働負担を軽減



4位 温暖化時代の果樹適地予測マップを開発

赤色レーザーダイオード（LD）が植物の成長を促進

5位 ブドウの新品種「サニーハート」が登場

桃の木、AIが水分状態を診断

6位 海水から肥料原料を確保

DXでライスセンターのスマート化

10位 大豆、根粒菌共生系で温室効果ガス削減技術の開発が選ばれた

（藤平樹）